

かまくら 女性史の会 Newsletter

第 131 号

2025 年 10 月 18 日 発行

〒248-0012 鎌倉市御成町 18-10

NPOセンター鎌倉 気付

メールボックス 26

E-mail: syokmat@yahoo.co.jp

《フローレンス・ナイチンゲール記章と岩田ウタ その1》

赤十字の創始者「アンリ・デュナン」(1826～1910)は、スイスジュネーブの出身で貿易商であった。1859年、イタリア統一戦争の激戦地、ソルフェリーノに於いて4万人に上る死傷者の悲惨さを目の当たりにして、村人たちと協力して敵味方の区別なく懸命に救護活動に当った。彼は戦場で目立つように白のスーツに中立国の人間である事を周知するために、自国スイスの国旗を腕章として巻いて救護活動に当った。人々は彼を「白衣の人」と呼んだ。ジュネーブに戻った彼は「ソルフェリーノの思い出」の手記を自費出版した。本の主旨は ①戦場の負傷者と病人は敵味方の区別なく救護する事 ②そのための救護団体を平時から各国に組織する事 ③この目的のために国際的な条約を締結しておく事の必要性を強く訴えた。この訴えはヨーロッパ各国に大きな反響を与えた。

1863年に主旨に賛同した5人委員会が結成され、呼びかけに応じてスイス他15カ国が加盟し、「赤十字規約」を採択した。翌1864年にジュネーブ条約が採択され、今日の国際人道法の礎となり、1875年に5人委員会から「国際赤十字委員会」となった。

1901年、アンリ・デュナンは第1回のノーベル賞を受賞した。デュナンの救護活動に多大な影響を及ぼした人にイギリスの女性フローレンス・ナイチンゲール(1820～1910)がいる。彼女はイギリスの上流階級出身で看護を職業として確立し、クリミア戦争終結後病院改革にも尽力しロンドンの聖トーマス病院にナイチンゲール病棟を実現させた。彼女は白衣を着用したことはなく常に黒の服を着ていたという。

1920年、国際赤十字委員会は彼女の功績を顕彰してナイチンゲール記章を制定し、世界各国から功績のある優秀な看護師及び篤志補助看護師を表彰する制度を作った。第1回の記章授与は1920年5月12日、ナイチンゲールの生誕100年の誕生日であった。日本からも日赤の看護師3名が表彰された。2025年に日本人受賞者は118名となり、世界最多となった。これらの受賞者の一人が第35回1995年に受賞した関東通信病院婦長等を歴任した岩田ウタである。

岩田ウタの受賞記録に1918(大正7)年7月22日に生まれ、神奈川県出身、現住所秦野市渋沢3丁目2とあるが、それ以上の個人に関わる詳細はない。かなり以前に岩田ウタの墓に参った人の記憶をたどり、藤沢市片瀬三丁目にある常立寺(北条時宗の命により処刑された杜世忠ら元国使の塚がある事で知られる)の小高い山裾に「岩田家之墓」を、この度確認することができた。墓誌と寺の話からウタについて多少知ることができた。

(その2に続く)

2025年10月15日 かまくら女性史の会会員 山根信子 横松佐智子